

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページに掲載しています。
県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします



津田幹夫院長

津田産婦人科クリニック

〒736-0032
広島県安芸郡海田町南幸町9-43
電話 082-821-0303
院長 津田 幹夫
診療内容 出産・妊婦健診・子宮がん検診・
更年期ヘルスケア・不妊相談・
産婦人科一般



○いつ頃開業されましたか。

平成20年に開業いたしました。それまで、県病院をはじめ様々な医療機関で産婦人科医として勤務し、安芸地区に周産期を担う産婦人科医院がなかったため、この地に開業することを決めました。

○開業5年を迎えられているようですがですか。

当院は診療圏が広く、呉市焼山地区や東広島市の患者さんも多く来られます。遠くからも来てくださることで、地域のお役に立っていると実感しています。産婦人科クリニックは正直大変ですが、中核病院のバックアップがあるからこそできていると思っています。

○毎日の診療で大切にしていることは何ですか。

忙しくても笑顔で対応することです。医院の理念としても「もうひとり子供がほしくなるような医院づくり」をあげています。これからも安芸地区の周産期を担う医院として「安心して受けることができる医療」を提供するため努力し続けます。

○県病院にひと言お願いします。

広島県全体のためにいつまでも頑張ってくださいたいです。お互いのことがよく分かる関係なのでありがたいです。今後、新しい先生が増えても、この関係が続けば良いと思います。



津田産婦人科クリニック外観

【取材後記】

親しみやすい笑顔で取材に応じてくださった津田先生。建物もホテルのような素敵な空間で、このようなクリニックであれば落ち着いて診察を受けることができると感じました。



院長撮影

県立広島病院からのお知らせ

看護師長川柳

当院看護師長の力作を披露いたします。

すぐグズる医師の姿に息子みる

息子と思えば腹立たず...

老眼が趣味を邪魔する糸通し

通した矢先にまた抜けて...

認知症見ながら思う我が将来

まだまだ先でもなうそです...

第3回 脳卒中もみじネットの会

- 開催日 平成25年 11月20日(水)
- 時間 19:00~20:30
- 場所 中央棟2階 講堂
- テーマ 『独居生活で脳梗塞を発症し、介護が必要になった一症例』(急性期～在宅まで)
- 講師 脳神経内科 金谷 雄平
地域連携センター 吉井 美香子
広島厚生病院 理学療法士 榎本 一枝
居宅介護支援事業所すみれ 谷 貴久子 ほか
- 対象 脳卒中に携わる医療従事者の皆様
- 主催 脳神経外科、地域連携センター
- 問合せ先 地域連携センター
TEL:082-252-6241

KBネット

現在の参加医療機関は

123 機関です。
(10月22日現在)

問合せ先 地域連携センター
電話(082)252-6228(直通)

外来診療のご案内

診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分
※午後の診療は科によって異なります。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始(12月29日～1月3日)

紹介状持参のお願い

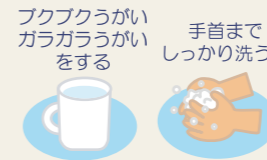
初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費の他2,620円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ち下さい。
※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承下さい。

インフルエンザ 対策

インフルエンザの流行は通常11月から12月に始まり、翌年の1月から3月頃に終息します。インフルエンザは高熱や関節の痛みなどを伴い、人によっては重症化するおそれもあります。流行を防ぐためには、原因となるウイルスを体内に侵入させないことや周囲にうつさないようにすることが重要です。インフルエンザの感染を広げないために、一人一人が「かからない」「うつさない」対策を実践しましょう。

インフルエンザから身を守るために

- ◎帰宅後はうがいと手洗いをする
- ◎普段の健康管理
- ◎適度な湿度を保つ
- ◎人混みを避ける
- ◎予防接種を受ける
- ◎食前の歯磨き



インフルエンザかなと思ったら

- ◎早目に医療機関を受診する
- ◎水分(お茶やスポーツ飲料など)をしっかり摂る。
- ◎安静にし、学校や仕事は熱が下がり2日経ってから復帰する。
- ◎咳エチケットを守る。



ワクチンの接種を受けましょう

最大の予防法は、流行前にインフルエンザワクチンの接種を受けることです。ワクチンの接種で、インフルエンザに感染しにくくなります。また、かかっても軽い症状ですむことが証明されています。今までかかっていない人や、ワクチンの接種を受けていない人は、受けておいたほうがよいでしょう。接種を希望される方はお近くの医療機関へお問い合わせを。



マタニティケアのご案内

県病院でお産をしてみませんか!?

当院では、出産を行っているクリニックなどで妊婦健診されている方の、出産の受け入れを行っています。

妊娠中のケア

助産外来

順調に経過されている妊娠32週以降の方を対象に、助産師による妊婦健診を行っています。超音波で赤ちゃんの様子を見ながら、30分間ゆっくりお話しさせていただきます。公費券で対応しますので、特別な料金はいただきません。



超音波で見えています

- 火・木曜日 午前中
- 一人30分
- 予約制

パママスクール

お産の心構えや過ごし方、赤ちゃんのお世話についてご主人と一緒に体験していただけます。



スクールの様子

- 2ヶ月に1回の開催
- 予約制・無料

妊婦保健指導

助産師が個別に妊娠期の生活指導をさせていただきます。分娩時のパースプランのご相談にも応じています。

- 月・水・金曜日
- 一人30分
- 予約制・無料



母親学級

妊娠中の生活やお産についてお話させていただきます。お母さん同士、交流を図っていただけます。

- 木曜日 午後13:30~15:30
- 予約制・無料



分娩時のケア

アロマテラピーや音楽を聴きながらリラックスした環境でご家族と一緒に過ごしていただけます。希望される方には安全に配慮し、早期母子接触を行っています。



陣痛室1
←分娩室

退院後のケア

母乳外来

退院後から卒乳まで、おっぱい相談、育児相談を行っています。

- 月~金曜日 午後(祝日除く)
- 1人60分
- 予約制・1回 3,000円

ご予約の際は、お電話で

254-1818(代)
(受付時間:平日9時~15時)

西4病棟まで、
ご連絡下さい。



産後のケア



母子同室です

出産後、母子同室を行っています。赤ちゃんとの生活を楽しみながら育児にも慣れていくことができます。退院に向けて乳房のケアや、沐浴指導、生活指導を行い、自信を持って退院していただけるよう心がけています。

当院は総合周産期母子医療センターです!

妊娠・出産から産後にかけて、お母さんと赤ちゃんに安心・安全な医療を提供するとともに、リスクの高い方にも対応しています。お母さんが主体的にお産ができるよう、妊娠期から継続した看護を行っています。母乳哺育をはじめ、お母さんにあった育児スタイルを応援します!

- スタッフ一同、皆様の快適なマタニティライフをサポートいたします。
- NICUとの連携で、出産時・出産後の新生児の対応が充実しています。



私たちにお任せ下さい!

外科医の独り言...no.26

— 子育て —

先日、恩師と久しぶりに食事をした際、いつもの如く教育の話になりました。まあ現在も教育に携わっておられるので、話題は「教育の評価」ということになりました。元来出来の良い子が東京大学に入学して良いところに就職するのは当たり前で、東京大学で良い教育をしているとは限らない、ということらしいのです。いかに学生の才能を伸ばしてあげたかを評価してほしいとのことでした。東京大学に入る子の多くは有名進学校に入る実力があつたから進学校の授業にも付いて行けるわけで、必ずしもその子供の才能を大幅に伸ばしたとは言えないかもしれません。

そういえば近々小学校3年生から英語の授業が始まるようです。グローバル化の時代を生き抜くには英語の習得は最低限必要ということのようですが、日本語もまともにしゃべれない小学生に英語はどうかと思いますが…とは言うものの我が家の3人の子供も実は小学生の時に近所の英会話教室に行かせていました。私はどちらかというと消極的だったのですが、やはりできるだけ眠っている才能を伸ばしてやりたいという親心でしょうか。結果は、3人とも英語の才能は眠ったままでした。というか授業料を払って苦手意識を植え付けただけのようでしたが、忍耐力は付いたみたいです。長男の時には、やはり初めての子供だったので親も焦りがあり、3歳の頃体操教室にまで行かせました。しかし結果的にはそんなことをしなくても小学校から始めたサッカーでめっちゃくちゃ足が速くなりました。やはり子育ては合理的に行きません、難しいですね、しかしそんな私たち夫婦もいろいろ経験して勉強になりました。2番目、3番目と子供を育てていくにしたがって段々習い事が少なくなりました。

子育てに慣れたというか、それどころではなかったのでしょうか。長男にとって最も良かったことは子供の時の写真、ビデオが沢山あることですかね。残念ながら3番目の次男の写真があまり見当たりません。撮ったはずなのにいまだに現像していないのかもしれませんが。その3人の子供も全員成人し、我が家は夫婦二人と犬猫3匹の生活で静けさを取り戻していますが、今思えば我が家の子供たちにとって役に立った習い事は、娘のダンス教室と次男の公O教室でしょうか、別に公O教室の回し者ではありませんが、本人が本当に役に立ったと言っていました。まあ、男二人は小学校から大学までサッカーを続けていますからこれが一番ためになった教育かもしれません。

数年前に妻と子供の話をしていた時「3人の子供を育ててきてどういう教育が良いのか、わかってきたような気がする。4人目は絶対に良い教育ができる自信がある」と妻に言ったことがあります。すると妻は「はあ?いつ育てたん?」と言。確かに仕事と飲みで家にあまりいなかったような気がします。そして今思うことは、4回目の子育て?は孫しかいない。孫を可愛がるおじいちゃん、おばあちゃんの気持ちがやっとわかったような気がします。

しかし、ただ可愛がるだけではいけません。過去の教育を評価して、同じ過ちを起ささないことが大事です。



副院長(消化器・乳腺・移植外科主任部長)板本敏行(いたもと としゆき)

病棟編

看護部だより

東7病棟

東7病棟は、子どもたち専門の病棟です。39床有り、主に小児内科、小児腎臓科、小児外科、新生児科、小児感覚器科、などの子どもたちが入院しています。“子どもにとってよいことは?”を大切に、多職種が協働し、安心で安全な療養生活を提供しています。病気や障害による体や心のつらさや、成長発達への影響をできるだけ少なくできるよう、子どもと家族の思いに寄り添いながらサポートしています。又、入院中だけでなくお家でも必要な治療を継続し、より子どもらしく生活していけるよう、保育園などの教育機関や保健センター、訪問看護ステーションの皆さんとの連携を大切にしています。スタッフ一同、子どもの頑張る力や笑顔に元気をもらいながら日々、取り組んでいます。



子供たちの笑顔に元気をもらっています!